

第6回白馬村学校のあり方検討委員会 議事録

- 1 日時 令和3年10月5日(火)
開会 午後4時00分 閉会 午後5時32分
- 2 会場 白馬村役場 3階 302会議室
- 3 出席者 委員 花岡 秋好(地域住民代表)
委員 柏原 輝久(地域住民代表)
委員 徳武 信一(保護者代表)
委員 柏原 周平(保護者代表)
委員 吉沢 一夫(学校関係者)
委員 松下 設吉(学校関係者)
委員 浅原 昭久(学校関係者)
委員 清水 蛍(公募委員)
委員 塩島 弘之(学識経験者)
- 説明者等 教育課長 横川 辰彦
教育係長 中村 由加

- 4 協議 (1) 答申案草案について
(2) 学校規模について
① 今後の推移資料の説明
② 2校継続と1校統合の比較概要説明

5 議事の概要

○開会(教育課長)

只今から第6回学校のあり方検討委員会を開会する。
委員長、ご挨拶とその後の進行をお願いします。

○委員長挨拶(塩島委員長)

こんにちは。前回は7月30日に検討委員会を行ったが、コロナ感染拡大により8月・9月の会議は延期になってしまった。今は、村内の感染状況も落ち着き一安心している。学校関係者の方々は、子どもたちの感染対策にご尽力いただき大変だったと思う。本日の会議は17時30分終了を目安としたい。

○協 議

(1) 答申案草案について

(塩島委員長)

これまでの協議で皆さんから出された意見を基に教育委員会で答申案を作成しているので、これについて発言をいただきたい。また、前回の委員会の中で、学校規模も扱うということだったので触れることとする。答申案を事前にお読みいただいたかと思う。確認のため答申案を教育係長に大きな段落ごとに読み上げてもらい、その中で質問や修正、追加等があれば出していただきたい。答申書は今日が正式決定ということではなく次回も扱う。

(教育係長)

・答申案の前段部分(白馬村学校のあり方検討委員会は ～ 具体的な方向性や課題を次のとおりまとめた。)を読み上げる。

(塩島委員長)

前段で意見はあるか。

(A 委員)

具体的なポイントの2点目と4点目の内容が似ている。「整った学習環境」と「魅力的で快適な教育環境」の違いがわかるように記載した方が良いと思う。

(教育課長)

4点目の方が、どちらかというハード的な内容を打ち出した方がわかりやすいので、文面を考える。

(塩島委員長)

原案を作成したのは私だが、確か2点目は学習に係る狭い意味での環境を示していて、4点目は職員の人数や給食施設等、直接学習に関わらない広い意味での教育環境だったと思う。説明不足なので、2点目は学習環境に絞った意味で記述し、4点目は追記してわかりやすくしたい。

(教育係長)

・答申案の「特色ある魅力的な教育」を読み上げる。

(塩島委員長)

意見はあるか。

(A 委員)

文中の「G I G Aスクール構想による I C T機材」の「機材」は要らないのではないかと。機材というと箱だけのイメージになる。

(塩島委員長)

そのような方向でよろしいか。では「機材」は削除する。

(教育係長)

・ 答申案の「地域力を生かした教育」を読み上げる。

(塩島委員長)

意見はあるか。

・ 意見なし

(教育係長)

・ 答申案の「学校施設のありかた」を読み上げる。

(塩島委員長)

意見はあるか。

(B 委員)

質問だが、小中一貫教育のところの「まとめることによる魅力的な教育方針」とはどこにある。

(教育課長)

今後、そういうものを作って検討すべきということ。

(C 委員)

2行目の「魅力的な教育活動をしていくのかを考えるべきであると委員会の中で」とあるが、「魅力的な教育活動をしていくのかを考えるべきであるというのが委員会の中で」とした方が聞きやすい。

(塩島委員長)

なるほど。

(D 委員)

答申案にないが、小学校がなくなるとその地域に人が住まなくなり過疎化に繋がる恐れがあるので、そういった懸念を答申に盛り込めないか。

(塩島委員長)

では、盛り込む方向で事務局に検討してもらおうということではよろしいか。

(教育課長)

施設がなくなることから、学校施設のありかたで盛り込んだほうが良いか。

(B 委員)

地域力の方で入れた方が良く思う。

(塩島委員長)

この後に説明する学校規模にも関わってくる内容なので、どこに入れるかについては全体が終わった後で考えたいと思う。

(教育係長)

・答申案の「最後に」を読み上げる。

(塩島委員長)

意見はあるか。

・意見なし

全体を通して意見はあるか。

(E 委員)

最後の文で「組織作りのための人材育成が必要である。」とあるが、白馬は色々な人材が集まっているので「育成」と言うよりも「発掘」や「活用」としたほうが、白馬の実情に合っていると思う。

(塩島委員長)

文章的には「人材の発掘と活用」ということで良いか。

(E 委員)

良い。

(F 委員)

検討委員会では、これから少子化になることを念頭に協議してきたが、少子化を食い止めるような政策を村に実行してもらい上手くいけば、今のままと継続できたり、統合しなくても済むかもしれないので、その点についても触れてもらいたいと思う。

(教育課長)

書き方が難しいが、特色ある魅力的な教育をやっていることを発信していけば移住者が増える可能性もある。

(E 委員)

F委員の意見と重なるところがあるが、白馬中の場合、実際ここ数年生徒数が増えていて嬉しい。生徒数が増えれば先生の数も増えて教育が充実するので嬉しいと思っているのと、具体的には、来年度から白馬インターナショナルスクールが開校するにあたり、白馬に籍を置く子どもが

出る可能性がある。白馬中に籍を置きながら、白馬インターナショナルスクールに通う子どもたちが全国から集まれば人口も増えるし、白馬中の教員の数も増える可能性があると思って楽しんでいるところはある。

白馬は魅力的な地域なので、流入人口をどう捉えるかで少子化も変わってくる。出生率から言えば子どもの数は減るが、流入人口次第で少子化の考え方は変わるかもしれない。

(教育課長)

F委員やE委員のお話を総合して聞く中では、3つの項目の中に入れるより「最後に」のところで、魅力的な学校をつくることで将来的な人口増に繋がり、村の活力となって施策にも反映されるということを入れ込んでおけば、魅力的な村づくりと魅力的な教育ということでもまとめられるように思う。

(塩島委員長)

では、そんな方向で事務局により文章を作成していただき、次回の委員会で再度検討したいと思うがよろしいか。他に全体を通して意見はあるか。

・質問なし

(B委員)

特色ある魅力的な教育のところで、英語学習の充実とかICTや地域人材の活用、地域独自の学習というのは、白馬村の大人が子どもたちに求めるものであって、子どもたちの望むものが一切入っていないのが気になる。子どもからのアンケートを取っていないので、どうしてもこのような形になると思う。この会ではこれで良いかもしれないが、自分は白馬村の人というよりも保護者という立場が大きいので引っかかる。

(塩島委員長)

おっしゃる通りだと思う。「最後に」のところでアンケート調査の実施について触れている。アンケートを取る場合には、子どもの他にも学校職員や地域の人、保護者も学校に上がる前の子どもを持つ保護者も対象にする等、多方面にアンケートを取る必要があるかと思う。アンケートで様々な方の意見を集約して反映してもらいたい。今回は大人だけの会議なのでこういうまとめ方になるが、具体的に答申案において入れてもらいたい文面等の提案はあるか。

(B委員)

具体的なことはまとまっていないが、全体を通して大人が子どもに求めている像が前面に出ている気がしている。答申案にある「地域に学び、地域とともに歩み、子どもたちが誇りを持つ学校」というのはとても大切なことだと思うが、自分の子どもには、白馬という地域や学校に対して誇りを持ってもらうより、外に出て行っても「白馬に戻れば大丈夫、安心できる」という気持ちをもってもらえるような学校であつたら保護者としては嬉しい。自慢できる学校はもちろん大事だが、その前に「白馬の方々にて育ててもらった、失敗しても白馬に帰れば安心できる。」と思える学校であつてほしいと思っていて、そういう意見が今回全く入っていないことが気に

なる。

(G 委員)

B 委員の言う安心感というのは、働く場所があるとか経済的な意味合いの安心感を言うのか、気持ちの上での安心感を言うのか。

(B 委員)

働く場所があるということではなくて、良い教育とは何かという話になるが、子どもたちの周りにいる大人のあり方が大事で、子どもがすごく大切にされて育てられたと感じられることが、英語やパソコンやスキーができるということよりも全然大事だと思っていて、そこが置いてきぼりになっていると感じがする。そういうことから、地域の人に入ってもらった教育の充実が重要になっていると思うのだが。

(D 委員)

自分の経験から言うと、地域にいるときはその良さに気づかなくて、外の地域に行って外の人と話したりする中で、自分の地域の特徴に気付かされた。

(B 委員)

自分は白馬に移住してきてめいてつに住んでいるので、地域の人に支えられているという感覚があまりない。学校を介してしか地域の人と関わる機会がない。

(G 委員)

学校を介してしか地域の人と関わる機会がない人はこれからも増えていく気がする。

(E 委員)

今の B 委員の意見を答申に反映させるとしたら、「自分らしさが認められる学校」、または「自己肯定感が育まれる学校」という項目を作って、数行で良いので、例えば「美しい都市山岳白馬で自分らしさを認められる教育の保障」といった文言を盛り込んだらどうか。今ある 3 項目の中には、今の B 委員の意見は入らないように思う。

(G 委員)

地域力を生かした教育の 1 行目にある「学校は教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有する」というところに、今の B 委員の気持ちが込められているような気がするが。

(塩島委員長)

今の 2 人の意見を聞いて、B 委員はどう思うか。

(B 委員)

魅力的な教育で挙がっていたのに、少し物足りないと思っていたので、E 委員の意見でお願いしたい。

(塩島委員長)

では、今ある「特色ある魅力的な教育」「地域力を生かした教育」「学校施設のありかた」の3項目とは別に、「ありのままを認められて、安心して育つことができる教育」のような項目を設けて作成するというところでよろしいか。教育委員会はどうか。

(教育課長)

そのようなことで作成する。1点B委員に確認するが、前段の4ポイントある内の3ポイント目に「地域に学び、地域とともに歩み、子どもたちが誇りを持つ学校」とあるが、そうではなくて話の内容からすると、「地域に学び、地域とともに歩み、子どもたちの心の拠り所となる学校」のような意味合いということで良いか。

(B 委員)

「子どもたちが誇りを持つ学校」という文言を変える必要があるかわからないが、意味合いはその通り。

(塩島委員長)

では、別項目を追加する形で作成してもらおう。教育委員会で作成した答申案について、次回もう一度、検討する。

(2) 学校規模について

(塩島委員長)

これから少子化が進む中で、学校規模がどのような状況になり、統合する場合としない場合でどのようなことが考えられるか等を明らかにすることで、教育委員会の基本方針の作成や今後統合について議論する上での判断材料にしてもらいたいということで、取り上げる。

①今後の推移資料の説明

(塩島委員長)

令和9年度までは、出生数からおよその児童生徒数がわかっているので、その数を基に南・北小学校、中学校毎の児童生徒数、1クラスの人数や学級数の状況等についても1度示し、ポイントを挙げてみた。なお、先ほどE委員が言ったように、白馬インターナショナルスクールの子どもたちが流入する可能性もあるので、数字は変化していく可能性が大いにある。

また、長野県が示す望ましい学校・学級規模について、令和9年度の各校の状況と照らし合わせてみた。大雑把に見て資料のような状況であるが、何か質問はあるか。

・質問なし

②2校継続と1校統合の比較概要説明

(塩島委員長)

前回の検討委員会で、2校継続と1校統合の良い点、問題点について考えられることを挙げて整理したらどうかというご意見をいただいた。教育委員会では、今後、基本方針を定める上で、検討委員会で出された様々な視点や方策等について、取捨選択の材料にしたいという話があった。委員会で統合問題に関する様々な視点について、色々な角度から意見を出し合いじっくり話し合えればと考えていたが、コロナウィルス感染症の影響で会議が延期になり、一から意見を出し合うのは時間的に厳しくなってしまったので、会議の効率化を図ることから、予め自分の方で比較概要の一覧表を作成し資料として示させてもらった。事前にこの比較概要の資料をお配りし一読していただいていると思うので、違った観点からの見方や修正箇所、追加すべき点等があれば出してもらいたい。あくまでこの資料は、教育委員会が今後検討する上での一助になればということで、様々な視点を挙げることを目的としており、ここに書いてあることで決めつけようというものではないことをご理解いただきたい。

(D 委員)

4番の安心・安全の感染症対策のところ、記載してあること以外の見方もあって、学校統合の場所にもよるけど通学方法については、場所によっては歩いて行けなくて送迎ということもあることから、ある意味1校統合によって安全にはなると思う。ただ反面、徒歩通学は他の学年と交流もできるので、それがなくなり教室に行って座るだけならその繋がりが減る。徒歩通学は、体力をつける上でもとても大切なことだと思う。

(B 委員)

今の意見に関する事で、私も登下校をみんなで歩いて寄り道することはとても重要だと思っているが、実情は習い事等で送迎されている子が多く歩いている子は少ない。家はめいてつだが、国道に入る前に1人になってしまうことからやはり危険で、1人で歩かせることはできない。また、安心安全の面でいうと、南小付近で事故も3件くらいあったので、安心して歩かせられることが難しいと感じる。

(C 委員)

全体を通しての意見だが、白馬村の地価が非常に上がってきており、観光的な面から見ても魅力がある地域であり、今後の経済の動向等によってかなり左右される村であることは確かである。色々な方が白馬に住みたいとなれば統合の話は遠ざかる。観光的に人数が増えていたり、産業的人口の増加が見込める形のない所もちろんあるわけで、そういう所に比べると人口変動が見通しにくい場所である。だからと言って「わからない」とはしておけないので、委員長が言うように2校継続の場合はこんな要素がある、1校統合の場合はこんな要素があるといった、たたき台があること自体が大事だと思う。今後を考える上での着眼点が必要であり、2校にするか1校にするかを今慌てて固めることは難しいと感じている。資料のように子どもの数が激減するようには思えない部分もあるので。

(A 委員)

9 番の校舎・施設の 2 校継続のところ、改修又は建て替えの必要性とあるが、改修してまだ何十年も使えるものなのか疑問に思う。個人的には 2 校継続の方が絶対に良いと思っているが、例えば大町市の一中と仁科台中の校舎が建ててまだ十数年しか経っていない内に、もう 2 校を 1 校に統合するという状況になってきている中で、白馬の小学校 2 校をもし新しくした場合、今後その 2 つの施設をあと 50 年間ずっと使っていけるのかと考える。令和 9 年以降はどうなるか分からないということで済ませてはいけない気がする。長期的な村の施策を踏まえて、これから村の人口をどうしていくのかという見通しを持って考えていかななくてはならないのではないかと。施設を作ったけど 20 年後には使い道がなくなってしまったというような物は作ってはいけないと思う。

(G 委員)

自分は堀之内地区で、全世帯数 74 の約 2 割の 15 世帯くらいは新しい世帯である。白馬村の経済がどうなるかで人口も変わってくるので、今現在の子どもの数では 10 年後はわからない、見通しが見つからないのはわかる。

(F 委員)

今のようなコロナ禍があと 2 年も続けば観光や宿泊業者は生計が立てられない。また、もっと長期的なことを言えば、地球温暖化で雪が降らなくなりスキー場がなくなれば、どうしようもない。変動するのは仕方がないが、魅力的な村づくりで人口が増えてくれれば 1 番幸せだと思う。魅力ある村づくりの努力はどこかでしてもらいたい。自分は飯田地区だが、これまでやってきたお祭り等を続けていくのも難しい状況である。子どもが生まれないので、おんべの竿も出してもらえない。30 年前には 110 軒以上あった民宿協会員が今は 60 軒くらいになっていて、飯田や白馬町、八方のような大きい地区でそのような状況だから、村としては厳しい状況だと思う。

(塩島委員長)

これは結論を出すことではないので、こういう見方もあると参考にしてもらいたい。これから統合問題について教育委員会で話し合うときに、こういった視点からこんな課題やメリットが出てくる可能性があるといったように、気づかない部分を提示する意味がある。また、統合問題を考えるときに、どんな観点を優先するかは人それぞれなので、様々な観点から考えられることを提示するのであって、この会は優先順位を決めるものではないので、参考にしてもらいたい。

(徳武副委員長)

それからこの資料は、これまでの議事録を受けて、皆さんから出された意見を委員長が拾い出しているものであるので、この委員会で議論をした結果を示すものでもある。

(塩島委員長)

資料にはちょっと新しく入れた部分もあるが、それから最初に D 委員が言った、小学校がなくなると地域の過疎化につながる可能性があるという点については、事務局に記述を任せても

らって、次回の委員会で検討させていただく。

○今後の予定

(教育課長)

今日いただいたご意見を基にもう一度答申草案を修正して、10月の後半から11月の初旬にかけて委員会を開催し、修正した草案を見ていただく。そこでまた修正があれば、今度は書面協議のような形で最終案を見ていただき、11月中旬には委員長から教育委員会へ答申を行いたいと考えている。

(塩島委員長)

日程についてご承知おきいただきたい。お疲れ様でした。

○閉 会